

「子供に対する歯ブラシの安全対策」について

乳幼児の歯みがき中の事故に注意！

子供が歯ブラシをくわえたまま転倒し、喉を突くなど口の内を受傷する事故が毎年発生しています。歯ブラシが口の中に突き刺さると、重症な事故に繋がる可能性があります。特に1歳から3歳前半までの乳幼児に事故が多く起きています。

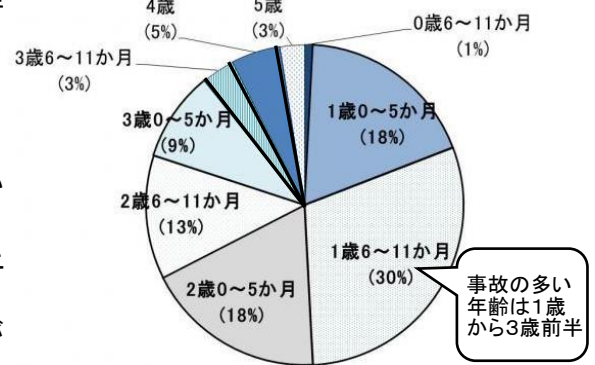
受傷リスクを低減する商品の改良、事故の危険性を伝える注意表記の強化、 喉突き事故対策を盛り込んだ安全基準の強化

＜提言の背景等＞

(東京都商品等安全対策協議会)

- 平成23年以降、歯ブラシによる受傷等により救急搬送された又は受診した5歳以下の事例は337件(入院を要した事例は61件)
- 東京消防庁救急搬送事例は、平成23から、毎年40件程度で推移。
- 事故件数は1歳代が最も多く、1歳～3歳前半の子供に多く発生。
- 受傷要因は「転倒」が最も多く、約6割。
- 子供が使用する歯ブラシは、「通常タイプ」が約9割。
- 保護者の仕上げみがきで使用する歯ブラシは、「子供が使用している歯ブラシを使用する」が約8割で、使い分けをしていない。
- 歯ブラシに関する安全基準等に子供の歯ブラシの喉突き事故防止について規定された項目はない。
- 注意事項は商品によって異なり、喉突き防止に関する注意表記がない商品もある。など

【年齢月齢別事故件数】
(医療機関ネットワーク情報等受診事例) N=120



【消費者の行動に結び付く具体的な注意喚起】

- より具体的な注意喚起を行い、歯ブラシによる喉突き事故防止に向けた行動に結びつく啓発を行っていくこと。
- ・事故の危険性の高い3歳前半までは、安全対策を施した歯ブラシを選ぶようにする。
- ・安全対策が施された歯ブラシを使用する場合でも保護者が必ず見守る。
- ・子供が使用する歯ブラシは安全性を重視し、保護者が仕上げみがきで使用する歯ブラシと使い分けをする。
- ・歯みがきは床に座って行う。
- ・歯みがきを行う場所、生活環境を見直し、子供に対するに事故のリスクを低減させる。
(居間、洗面所など場所ごとの具体的な注意喚起)
- ・歯ブラシだけでなく、箸やフォークなど、喉突きの危険性のある日用品にも注意する。など



【消費者への効果的な普及啓発】

- 親の世代の入れ替わり、子供の成長など、状況の変化のペースに合わせて繰り返し継続していくこと。
- ・消費者に広く注意喚起できるよう、あらゆる機会を捉え、様々な媒体を活用した広報を行う。
- ・インターネット、ツイッターやfacebookなどのSNSを有効活用し、ユーザー側からの情報発信を促進するなど、対象に届く効果的な広報を展開する。
- ・保護者だけでなく、祖父母や周囲の人も含めた幅広い層に対し、繰り返し啓発する。・保健所・区市町村と連携し、乳幼児健診等の機会を活用した啓発を行う。など



* 東京くらしウェブ「子供に対する歯ブラシの安全対策」報告、「乳幼児の歯みがき中の事故に注意！」より抜粋

日本歯科衛生士会より

このたび、東京都生活文化局消費生活部長から「子供に対する歯ブラシの安全対策について(提案・要望)」について、本会会員への周知の依頼がありましたので、各都道府県歯科衛生士会におかれましても、この提案・要望を受け、安全対策推進にご協力をお願いいたします。

* かわら版・お口と体の雑学クイズはお休みです。